

2016年2月12日

「アムンディ・US インカム・エクイティ・ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)
(愛称:アルティメット・アメリカ)」の運用状況および見通しについて

アムンディ・ジャパン株式会社

2016年1月終わりからの原油価格下落に合わせ、今月に入りインカム・エクイティ[※]・セクターは再び下落傾向にあります。

「アムンディ・US インカム・エクイティ・ファンド(毎月決算型)／(年2回決算型)(愛称:アルティメット・アメリカ)」(以下、当ファンド)の主要投資対象とする「TCW ファンズ-TCW マルチインカム US エクイティ・ファンド」(以下「投資先ファンド」)は株式等(「インカム・エクイティ」)を実質的な主要投資対象とし運用を行っております。投資先ファンドを運用するTCW インベストメント・マネジメント・カンパニー(以下、TCW)の見解を以下にご報告いたします。

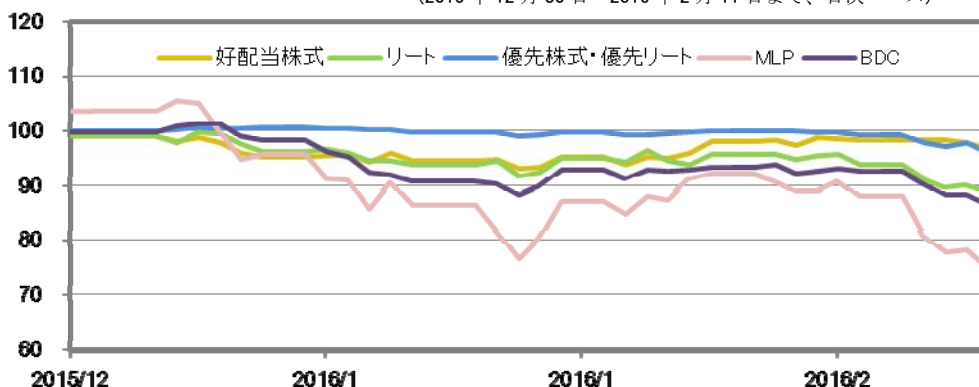
[※]ファンドにおいて、「インカム・エクイティ」とは相対的に好利回りが期待できる5つの資産、好配当株式・リート・優先株式／優先リート・MLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)・BDC(ビジネス・ディベロップメント・カンパニー)をさします。

市場の動向について

中国株の急落や商品価格の下落、FRB(米連邦準備理事会)による利上げに対する懸念等を背景にリスク資産が売られ国債等の安全資産が買われる展開となっている中、インカム・エクイティ・セクターも大きく売られています。中でも原油価格下落によるビジネスモデルへの懸念が生じているMLP(マスター・リミテッド・パートナーシップ)の下げはきつく、アレリアンMLPインデックスは年初来で2割を超える下落(2016年2月11日現在、以下同様)となっています。BDC(ビジネス・ディベロップメント・カンパニー)の代表的指数であるS&P BDCインデックスおよびリートの動きを示すS&P米国リートも2月に入り下げ足を強め、年初来で2桁の下落となりました。

【ご参考 米国資産別のトータル・リターン推移(米ドルベース)】

(2015年12月30日～2016年2月11日まで、日次ベース)



※各資産の指数は、好配当株式:ダウ・ジョーンズ好配当株式指数、リート:S&P US リート指数、優先株式/優先リート:BofAML Fixed Rate Preferred Securities Index、MLP:Alerian MLP 指数、BDC:S&P BDC 指数を使用。

・BofAMLの各インデックスは、メリルリンチ・ピアース・フェナー・アンド・スミス・インコーポレーテッドが発表しており、著作権は同社に帰属しております。

・当資料中に引用した各指数の著作権・知的財産権およびその他の一切の権利は各指数の算出元に帰属します。また各指数の算出元は、指数の内容を変更する権利および発表を停止する権利を有しています。

・グラフは2015年12月30日を起点として指数化したものです。

今後の見通しについて

過去の例を分析すると、優先株式を除くインカム・エクイティ各資産、中でも MLP とリートは FRB の利上げ後に市場全体を上回るリターンを示しています。TCW の基本シナリオ通りに、そして、FRB が期待するように、信用懸念と景気後退懸念が収まり、着実に経済成長がなされた場合、特に BDC やリート、好配当株の金融セクター等で力強いリターンの獲得が可能であると考えます。

しかし、世界の経済動向や米国の利上げペースに対する不透明性、地政学的リスクの存在により、市場のボラティリティ(価格の変動性)が高い状態が続くと予想されます。そして、原油価格が当面の間、大きく反発しない可能性を鑑み、MLP の組入れを引き続き基本配分より大きく削減した状態を維持する方針です。また BDC には大きな投資魅力が存在するものの、信用リスクに対する懸念が浮上していることもあり、より中立的なスタンスに変更する方針です。景気の回復と金利の上昇、信用スプレッド拡大が負の影響を与える可能性のある優先株式／優先リーートの組入れをさらに引き下げる考えです。

このような状況下で TCW は、ファンダメンタルズからみて魅力的な投資機会を提供するインカム・エクイティ各資産の特性に応じた配分を行うことにより、魅力的なリターンの獲得を目指す方針です。